

特別講演 2

「循環器領域における抗血栓療法と消化管出血の対策

～心房細動に対する新たなアプローチを含めて～」

東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科准教授

原 英彦 先生

本講演では循環器領域における抗血栓療法、特に抗血小板薬の有用性と出血性合併症の重要性について述べ、日常診療においていかに両者のバランスをとって適切な治療処置を行うことが大切かについて述べる。また抗凝固薬が現在のところ標準治療である心房細動において長期抗凝固薬投与を中止可能とする経皮的左心耳閉鎖術について述べる。

昨今、冠動脈ステント治療後の長期間にわたる抗血小板薬 2 剤併用療法 (DAPT) の是非をめぐる臨床試験が数多く発表され、本邦においても DAPT はできるだけ短期間にしてチエノピリジン系薬剤の単剤療法が今後主流になると考えられているが、当院の消化器内科データベースを 5 年間分紐解き、循環器疾患をもつ上部消化管出血緊急内視鏡例を解析すると癌関連死亡よりも心血管死の方が多結果であった。本講演では循環器領域における抗血栓療法と消化管出血の回避について、胃酸分泌抑制および全身抗凝固薬中止という観点から考察を行う。